

中間取りまとめ骨子たたき台のイメージ

2013年当時の考え方・取組

- 国際バカロレアを世界で活躍するグローバル人材を育成するための施策として位置付け。
- 国際的に通用する大学入学資格が取得可能なプログラムとして、ディプロマ・プログラム(DP)を中心に推進。

<日本再興戦略(平成25年6月) 抜粋>
 ⑦グローバル化等に対応する人材力の強化
 ・世界に勝てる真のグローバル人材を育てるため、「教育再生実行会議」の提言を踏まえつつ、国際的な英語試験の活用、意欲と能力のある若者全員への留学機会の付与、及びグローバル化に対応した教育を牽引する学校群の形成を図ることにより、2020年までに日本人留学生を6万人(2010年から12万人へ倍増させる。(後略)

○グローバル化に対応した教育を牽引する学校群の形成
 ・一部日本語による国際バカロレアの教育プログラムの開発・導入等を通じ、国際バカロレア認定校等の大幅な増加を目指す(2018年までに200校)。

<主な推進施策>

- ・DPの導入を促進するための教育課程の特例措置(学校設定科目等について卒業単位数に算入できる上限の拡大、英数理の必履修科目等の履修を関連するDP科目の履修によりみなす等)
- ・教員を確保するための取組(外国人に対する特別免許状の授与促進、IB認定に必要なワークショップ受講に係る支援等)
- ・大学入学者選抜におけるIBの活用促進
- ・IB認定のための手引きの作成・普及
- ・国際バカロレア・デュアルランゲージ・ディプロマ連絡協議会の設置・運営

国際情勢、技術革新

グローバル化、人工知能、etc.

教育政策の動向

- 学習指導要領改訂の方向性
 ・主体的・対話的で深い学びの実現(「アクティブ・ラーニング」の視点からの授業改善)等
- 高大接続改革
 ・社会で自立して活動していくために必要な「学力の3要素」を多面的・総合的に評価
- 第3期教育振興基本計画の策定に向けた基本的な考え方
 ・社会の持続的な発展を牽引するための多様な力の育成(グローバル人材育成含む)

IB推進の成果と課題

- <成果>
- ・1条校を中心としたIB認定校等の増加
 - ・IB入試の拡大
- <課題>
- ・MYP,PYPを含む推進
 - ・国内向けの情報共有体制の構築
 - ・日本におけるIBの効果検証
 - ・IB教員の充実
 - ・IBに対する社会的理解向上 等

今後の考え方・取組

国際バカロレアの理念及び教育カリキュラムと、日本の教育政策の方向性は親和性が高い。

学習指導要領が目指す 資質・能力	国際バカロレアの学習者像
①生きて働く「知識・技能」の習得	探求する人 知識のある人
②未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」の育成	考える人 コミュニケーションができる人 信念をもつ人
③学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性等」の涵養	心を開く人 思いやりのある人 挑戦する人 バランスのとれた人 振り返りのできる人

<基本的な考え方>

- ①国際バカロレアの「全人教育」を通じた主体的学びを重視し、幼稚園、小学校、中学校、高校を通じた国際バカロレアプログラム(PYP,MYP,DP)を推進し、今後の初等中等教育の好事例の形成を目指す。
- ②日本語DPの推進を通じて、日本型教育の海外展開や国際バカロレアとの相互発展を目指す。
- ③グローバル人材育成施策との連携を強化し、より深化した多様なグローバル人材育成を実現する。
- ④国内のIB教員養成等を通じた、持続可能な推進体制を構築する。

<新たな推進施策のイメージ>

- ・PYP, MYP, DPの一貫した推進体制の構築(コンソーシアム形成)
- ・国内向け情報共有プラットフォームの構築
- ・日本語DP等の効果検証(調査研究)
- ・スーパーグローバルハイスクール等との連携